

(様式1)

親子の学び応援講座実践報告書

名 称	「家読」の進め方について
講座開催日	令和元年6月28日
会 場	館岩小学校多目的ホール
参加人数	30名（小学校保護者・教員23名、中学校保護者・教員7名）
実践活動テーマ	子ども読書活動の充実のために
テーマ設定の理由及び実践活動のねらい	前年度の学校評価において、「読書をする」項目が児童、保護者ともに低い結果となった。それを受けて、今年度は「進んで読書をする」を学校の重点事項とし、まずは保護者の意識を改善すべく本テーマを設定した。
講座及び実践活動内容	
<p>本講座は保護者からたいへん好評であった。その一番の理由が「家庭での読書がこれほど大切なことなのか」ということを実感できた方が多かったからである。</p> <p>吉野校長先生は、まず、読書が大切ということよりも現代人の現状について話された。人工知能が進化しても、それは与えられた目的の中での処理に過ぎない。しかし人間は感性を豊かに働かせながら目的をも創り、相手にふさわしい表現を工夫したり、他者と協働をしながら納得解を見いだしたりできる素晴らしさを兼ね備えている。また、スマホを例に挙げ、スマホを操作している時間と学習時間の相反する曲線から見えてくる読解力不足という課題、家族との会話の減少等コミュニケーション不足になりがちな点の指摘もあった。</p> <p>それらの課題を解決する1つの手段として「家読」を挙げられた。家族全員で読書をする時間を設定したり、家族で同じ本を読んだりすることで、家族の中のコミュニケーションや絆が深まる。さらには読解力が高まり語彙力や世間一般の知識が豊富になることもあるという。この部分に聞き手はとても共感するものがあった。また、只見小学校での家読の実践例、家読を始めてからの意識の高まりなど、家読の良さの裏付けも話された。</p> <p>ご自身の経験も交えながら、分かりやすく家読の良さについて講演いただいた吉野校長先生には大変感謝している。その感動が冷めやらぬうちに、PTA会長、そして講演会の主催である厚生委員長から資料にもあった「家読（うちどく）はじめましょう」をA4に拡大し、全家庭に配付をした。2学期は、PTAを主体としたさらなるアプローチを考えていきたいと思う。</p>	
	

※講座及び活動内容の概要を記入してください。また、内容が分かる写真等を挿入してください。参考資料があれば添付してください。